

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

広島県 三原市

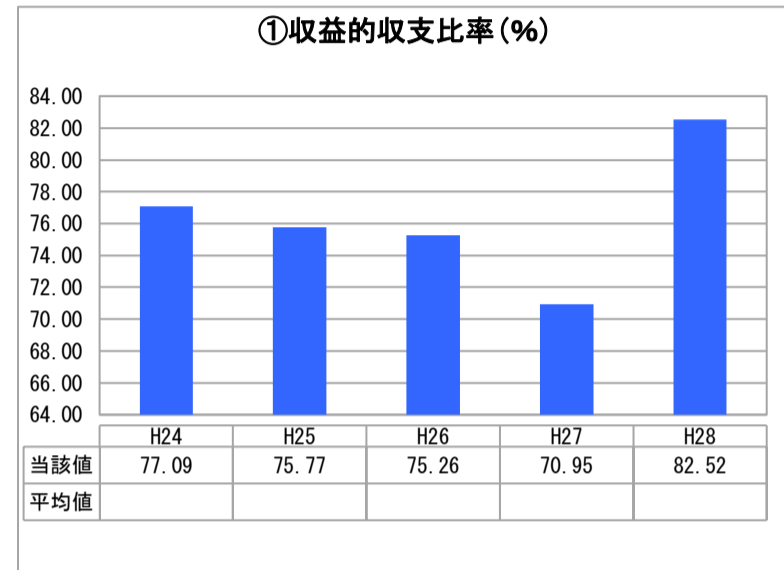
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	1.66	100.00	4,212

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
97,009	471.55	205.72
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,598	0.74	2,159.46

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



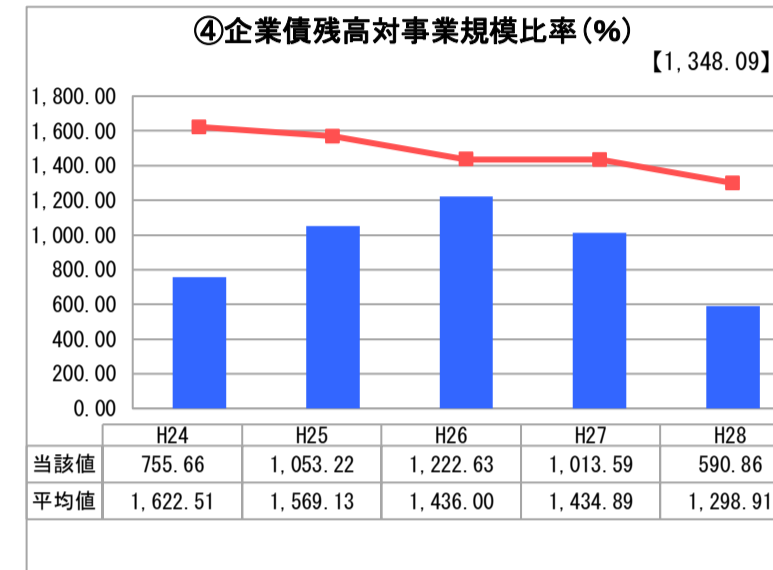
「単年度の収支」



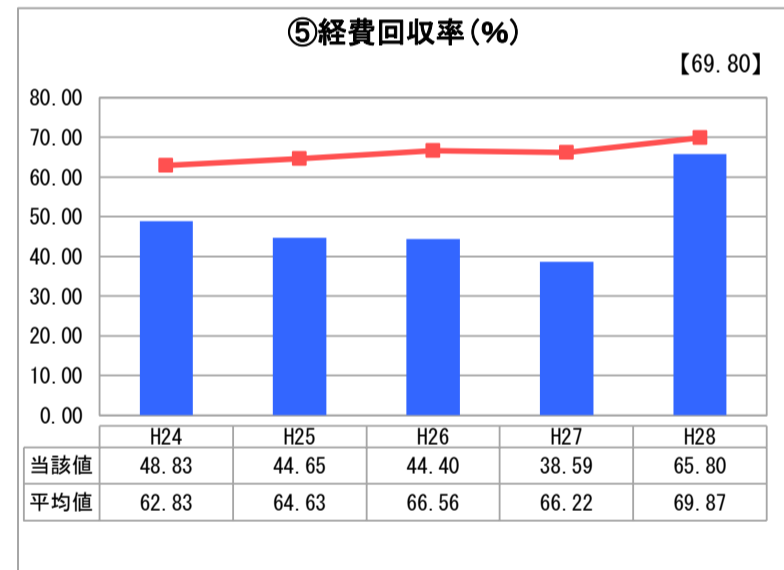
「累積欠損」



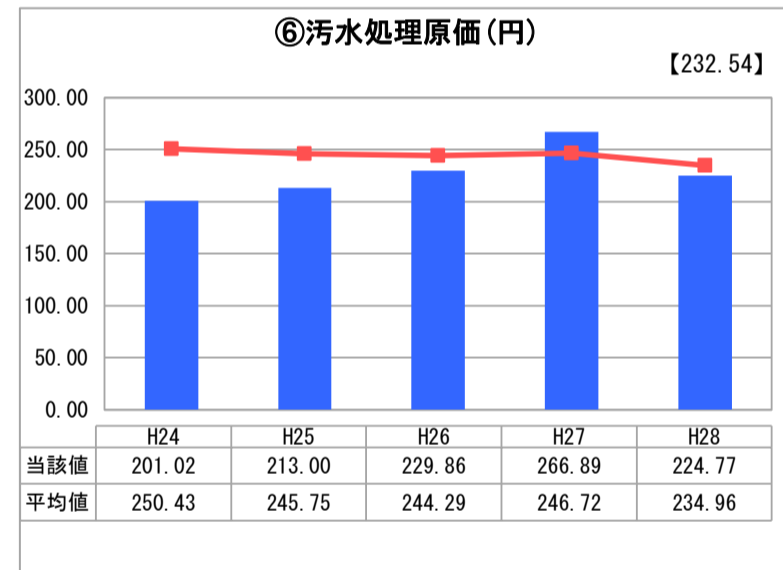
「支払能力」



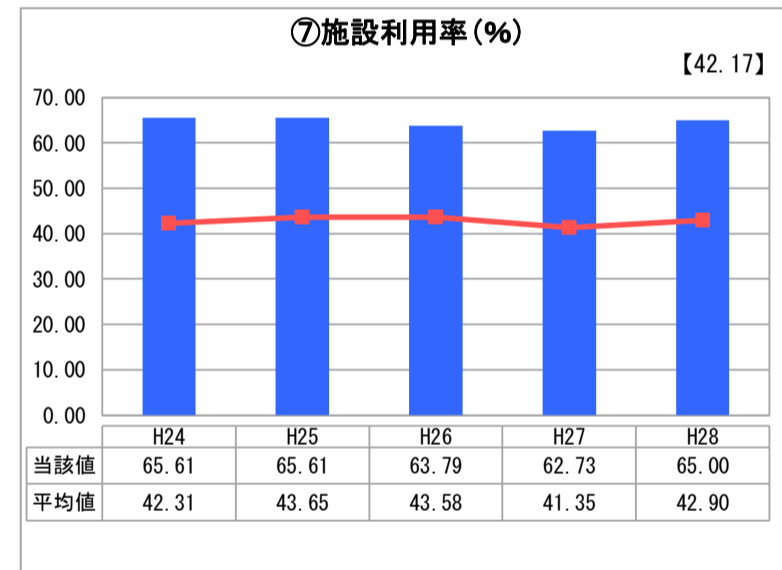
「債務残高」



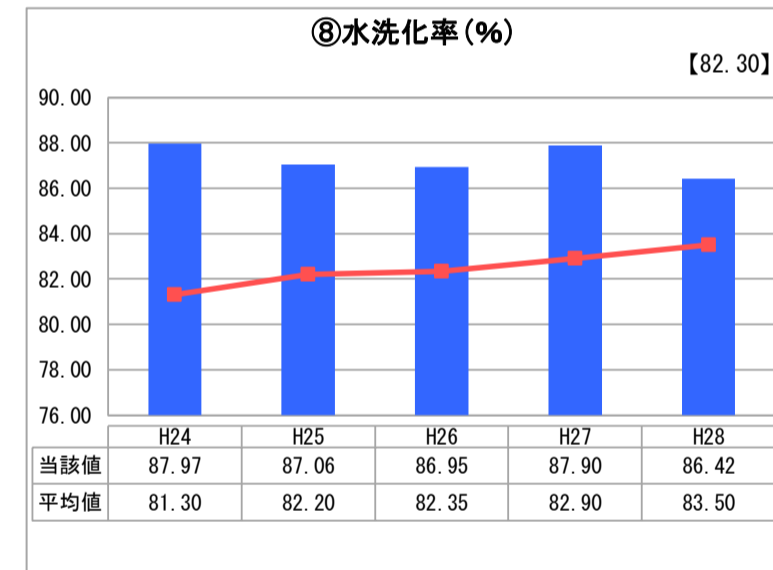
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

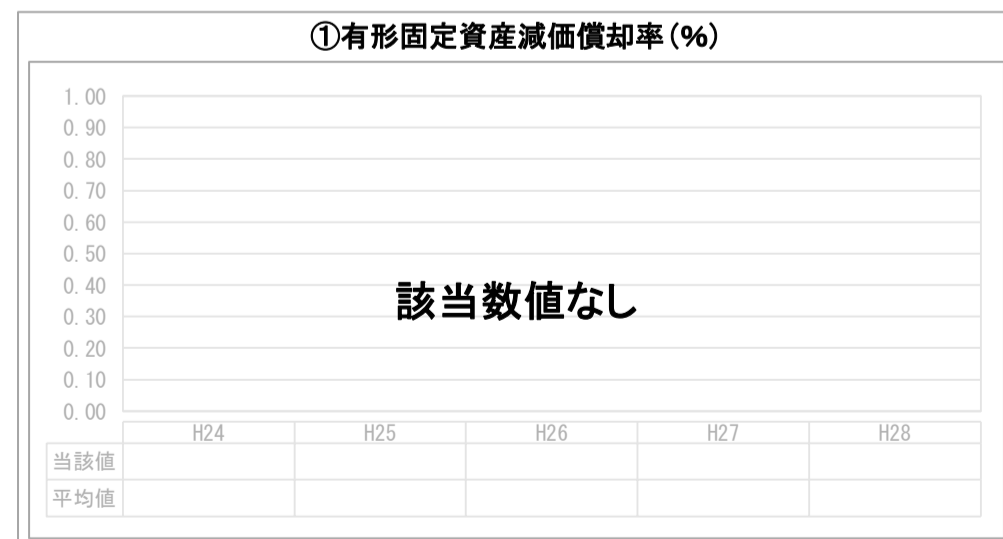


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

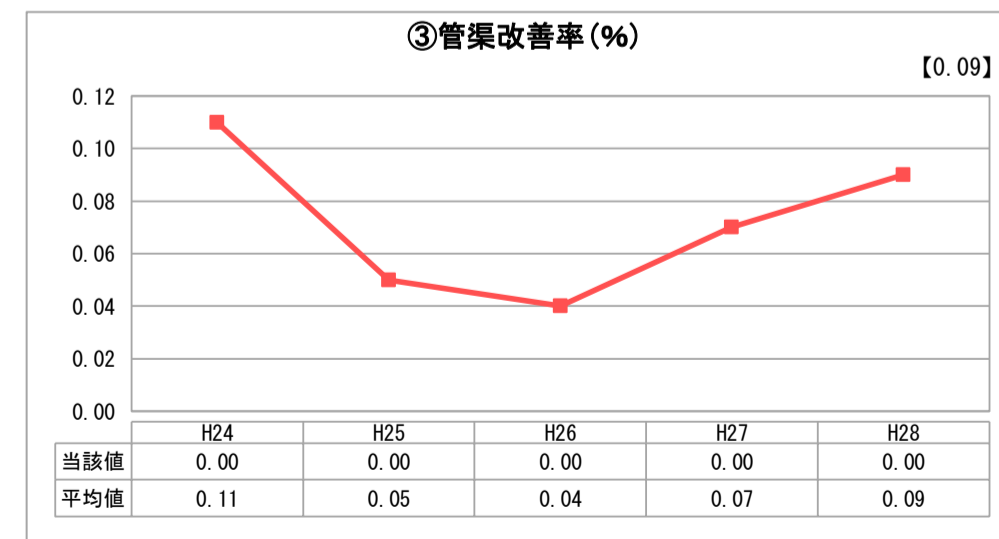
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- 収益的収支比率及び経費回収率が上昇【要因】料金収入の増加と経費節減によるものです。【今後】新たな区域拡大の計画はないものの、経年による維持経費の増加が懸念されますが、経費節減を行い低下傾向を最小限に留めます。
- 企業債残高対事業規模比率類似団体に比べ低い状況です。
- 汚水処理原価増加傾向ですが、料金収入の増加及び経費節減によりH28年度は減少しました。
- 施設利用・水洗化率類似団体より高い状況にあります。さらなる普及活動に努めます。

### 2. 老朽化の状況について

公営企業会計への移行に向けて準備を行っているが、施設の経年劣化により維持管理費が膨らんでいくため、経営改善・投資計画などの検討が必要です。

## 全体総括

平成28年12月に将来にわたり持続的に下水道事業を運営するため、長期的視点にたち現状や課題を踏まえたうえで、経営基盤の強化推進の基本となる【三原市下水道事業経営戦略】を策定し、市議会へ報告するとともに、平成29年1月よりホームページにより公開しております。収益的収支比率向上を図るため、適正管理の向上を最重点として取り組んでまいります。平成32年度に下水道事業を公営企業会計へ移行することから、経営の健全性、透明性を図るとともに平成31年度に改めて、見直し計画を策定します。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
 ※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。